

02-138	LIBRA-S 工法	清水建設
--------	------------	------

▶ 概 要

昨今、新規ダムの計画が減少している一方で、ダムの治水・利水機能を向上させる再開発工事の計画が相次いでおり、このような工事には、ダム湖への工事中用構台の架設が必要になる。そこで、ダムの再開発工事向けに、ダム湖に架設する工事中用構台の施工の安全性と効率を一層向上させる「LIBRA-S 工法」を開発した。

一般に工事中用構台は、湖底に打設する鋼管杭で作業構台を支持する構造になっている。従来は、湖上からクレーンで吊り降ろされたプレースを、水中で潜水士がボルトにより鋼管杭に連結しているが、ダム湖によっては水深 30～40 m での潜水作業が必要になり、かつ視界不良なことが多いことから、施工の安全性と効率の一層の向上が課題になっていた。

「LIBRA-S 工法」では、プレース材を仮組みしてチェーンブロックで吊り、これを下方にスライドさせたのち次のプレース材を仮組みするという作業を繰り返す。最下段のユニットが所定の水深に達したら、潜水作業によりプレースリングのボルトを本締めし、1 スパンの施工を完了する。写真-1 にプレース材組立て状況、図-1 にプレース材設置手順図を示す。

▶ 特 徴

- ①従来に比べ、水中潜水作業が 50% 減少する。
- ②水深が 30 m 以上の場合、従来に比べて構台工事の工期を 20% 短縮できる。
- ③潜水作業時間減少により、工事の安全性が向上する。

▶ 用 途

- ・ダム湖に架設する工事中用構台

▶ 実 績

- ・ダム工事中用構台設置工事（愛媛県）

▶ 問 合 せ 先

清水建設(株) 土木技術本部 技術開発部

〒104-8370 東京都中央区京橋 2-16-1

TEL：03-3561-3886



写真-1 プレース材組立て状況

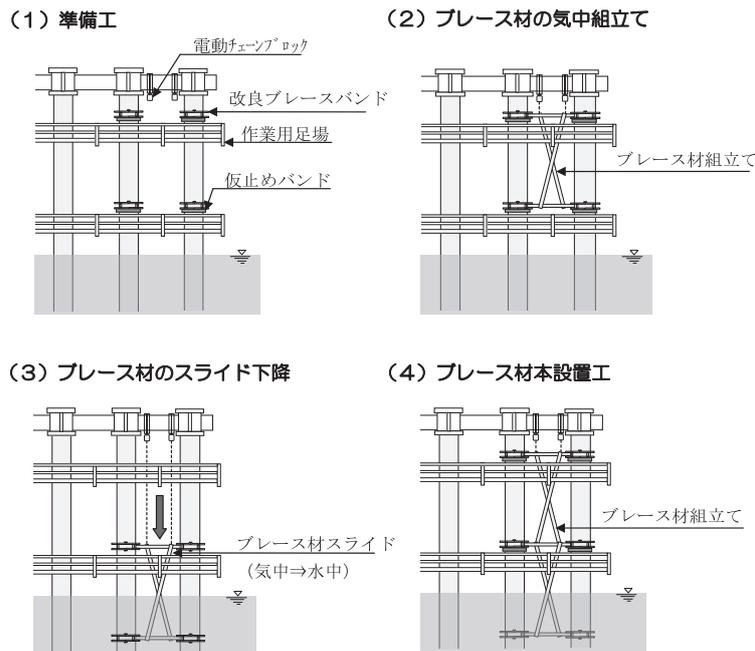


図-1 プレース材設置手順図